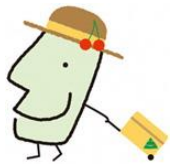


山形県の 英語教育充実だより

令和６年３月版
山形県教育局
義務教育課

【今回のテーマ】 小学校英語指導力向上研修会

１月２４日に本研修会を開催し、琉球大学の大城　賢先生からご指導をいただきました。研修会の概要をまとめましたので、改めて、授業改善の参考にしてください。

大城　賢先生からご指導いただいたこと

「くり返し」を大切にした単元づくり

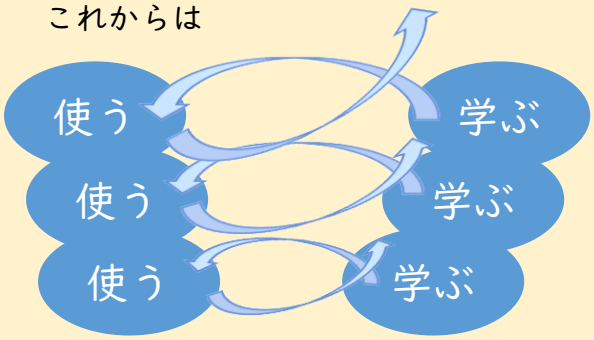
＜単元構成・指導のイメージ＞

これまでは

説明（導入） → 練習 → 使う

▲文構造、文法の説明や練習が中心で、単元の最後にやっと活動（使う）
▲場面や文脈のない中での導入
▲言語活動で、「〇〇を使って」など、使用する言語材料を指定

これからは



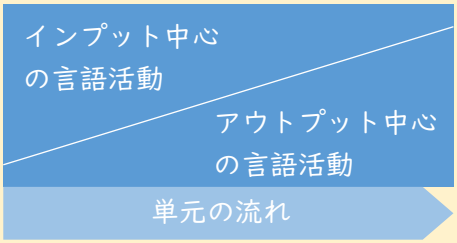
〇目的や場面、状況のある中で、場面や文脈と切り離さず導入
〇児童が自ら意味を推測したり、使用する表現などを思考・判断したりする
〇言語活動で表現して（使う）、場面や文脈のある中で語句や表現を練習（学ぶ）

「十分なインプット」を基にした単元づくり

Q．言語活動を単元のはじめから行うと言われても児童はできません。どう考えればよいでしょうか。

A．言語活動は、「話すこと」だけではありません。単元のはじめは「聞くこと」の言語活動を十分に行い、後半にアウトプットを多くするとよいでしょう。

＜「聞くこと」の言語活動のポイント＞
・目的や場面、状況のある中で、場面や文脈と切り離さず聞くようにする
・児童が聞いた英語の意味や使われる場面を推測できるようにする（児童が思考・判断する）



単元を見通した指導の例（授業動画より）

＜５年生：Unit 5 「This is my sister.」第１時＞

相手に自分のヒーローのことをよく分かってもらえるように、ヒーローのことを詳しく紹介しよう。

○「聞くこと」の言語活動から単元がはじまる。

Point
- 目的や場面、状況が設定された中で本単元の語句や文構造等が導入される。
- sister, father, mother, husband などの語句は未習であるが、家系図のように図式化しながら音声で導入し、意味を推測できるようにしている。

○児童と単元の目標を明確にしていく。

Point
- 単元の目標を児童が自分事として考えることができるように、児童と一緒に単元のゴール（仮）を考えていく。
  （例）「あこがれの人を知ってもらうために、どんな内容を言ったら知ってもらえるかな？」などと問いかけながら児童の考えを板書する。
- 単元のゴールは、途中で必要に応じて変更があることが示唆される。
  ＝　言語活動をくり返しながら、必要なものを足していく。

小学校（外国語）における「書くこと」の指導

＜目標＞

ア　大文字，小文字を活字体で書くことができるようにする。また，語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

イ　自分のことや身近で簡単な事柄について，例文を参考に，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

＜「書くこと」の指導のポイント＞

- 書くことを急がず、音声で語句や表現に十分慣れ親しむようにする（「聞く・話す」から「読む・書く」へ）
- 語句や表現を書くことで求められるのは、「書き写す」「例文を参考に書く」程度であることに留意する（何も見ないで書くことは求められていない）
- 機械的に書くのではなく、目的や場面、状況などを大切にする。

※その他（「読むこと」の留意事項）

- 書くことと同様、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現の意味が分かるようにする
- 音声で十分に慣れ親しんでいない語の綴りを示して発音練習するのは不適切
- 発音と綴りとを関連付けて指導することは、中学校で求められている指導事項